

# 熊本地震10年

# 7×2からの復興

観測史上初となる震度7の揺れに2度襲われた益城町。あれから10年―。たくさんの支援を受けながら復興への歩みを進め、街並みは大きく変わりました。10年の節目にこれまでの歩みを振り返り、今を見つめます。



木山橋開通

布田川断層帯  
(谷川地区)

写真：Tomooki Kengaku

震災記念公園

役場新庁舎

潮井自然公園

木山交通広場

土地区画  
整理事業  
(熊本県提供)

9年ぶりの花火

支え合い、共に紡いだ10年の歳月  
その絆を力に、創造的復興のその先へ

益城町長 西村 博則

甚大な被害をもたらした平成28年熊本地震の発生から、間もなく10年の節目を迎えます。改めて、犠牲になられた方々に心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまにお見舞いを申し上げます。

この10年という歳月は、多くの皆さまにとって筆舌に尽くし難い困難の連続であったと、深く胸に刻んでおります。

私にとっても、震災の日は脳裏から離れることはありません。役場に避難された300人を超える人々、絶え間ない余震に響く悲鳴、鳴り止まない緊急地震速報。その光景は今も鮮明によみがえります。

一夜明け、現実と思えぬ町の惨状を目の当たりにした時、家族や友人、町民の皆さまの無事を祈り胸が締め付けられる思いと、これから始まる途方もない現実が強いまいを覚えました。震災直後から、決断と葛藤の日々が続きました。避難所の開

設運営、被災状況の把握、仮設住宅の整備、被災者支援制度の確立。その全てに、迅速かつきめ細かな対応が求められました。幾度となく心が折れそうになる中で私を支えてくれたのは、全国から寄せられた数多くの支援、町民の皆さまと紡いだ絆、そして復旧・復興に身をささげた職員たちの存在でした。

この10年間、益城町は「創造的復興」を理念に掲げ、被災した町を単に元に戻すのではなく、震災の教訓を未来に生かし、災害に強く、より住みやすく活気あふれるまちづくりにまい進してまいりました。

そして本年3月20日、復興の象徴である県道熊本高森線の4車線区間が全線開通し、私たちの歩みはさらに加速しています。復興を遂げた街並みに臨むと、10年の万感の思いが込み上げるとともに、皆さまと共に歩む希望の未来が、確かに始まっているのだと実感いたします。



県道熊本高森線 4車線化 (熊本県提供)